講義概要

2024年度 作業療法学科
1年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《基礎分野》 =科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解=

科目名 Course title	物理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	大又 巧也	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、2つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理量とその表し方、ベクトルとスカラー 2 いろいろな運動と力 3 力のつり合いと運動の法則 4 物体の重心と回転運動 5 力のモーメント① 6 力のモーメント② 7 運動、仕事のエネルギー 8 演習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「PT・OT ゼロからの物理学」羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	統計学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	作業療法の EBM に必要な統計学について学ぶ。統計処理の基礎を学ぶこと、作業療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて統計処理を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ 2 推定と検定の基礎、2標本の差の検定—パラメトリック法(1) 3 1標本の差の検定—パラメトリック法(2)、差の検定—ノンパラメトリック法(1) 4 相関、回帰分析 5 重回帰分析、分割表の検定 6 一元配置分散分析、反復測定分散分析 7 信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 8 検査値の判断指標、まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	15 レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学 第2版 中山書店		
備 考 Other Comments	講義を中心に実施し、必要に応じて統計処理ソフトを用いた実技・実演を実施する。		

科目名 Course title	情報処理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	浅居 孝彦	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。</p> <p>授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 Word の基本操作（1）：基本的な文書作成 2 Word の基本操作（2）：文書の編集 3 Excel の基本操作（1）：データの入力・編集 4 Excel の基本操作（2）：表の作成 5 Excel の基本操作（3）：数式・関数の利用 6 Excel の基本操作（4）：グラフの利用 7 Excel の応用操作：データベースとしての利用 8 総復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>「課題の提出」、「単位認定試験」で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 割合については初回の講義にて確認。</p>		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	保健体育	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山口 典孝・森山 琢磨	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション、ドッチボール 2 ショートテニス 3 卓球 4 バスケットボール 5 ショートテニス 6 バレーボール 7 バスケットボール 8 ショートテニス 9 ショートテニス 10 卓球 11 フットサル 12 卓球 13 ショートテニス 14 ショートテニス 15 フットサル		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	活動点		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	外国語 I (医学英語) ※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森 拓也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：医療英語とは臨床英語&論文読解 2 医療英語を用いた論文の検索方法 国際雑誌の選定 3 Original Article (原著論文) Case Report (症例報告) Review Article (総説) とは 4 医学英語論文の種類と Title の表現 Title から読み取る論文の良し悪し 5 Abstract とは？ Informative Abstract と Indicative Abstract 6 Summary 症例報告の Summary 総説の Summary 7 Introduction の読み方 8 Materials and Methods と Results の読み方 1 9 Materials and Methods と Results の読み方 2 10 Discussion の読み方 11 Conclusion References Acknowledgement の読み方 12 論文を読んでみよう (グループワーク) 13 論文を読んでみよう (グループワーク) 14 临床上必須英語・診療上常用英語 15 総復習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」 金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員 作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験1級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および1年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	1 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙①&文法① 2 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文字/語彙②&文法② 3 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法③&読解① 4 日本語能力試験N1 対策講座 言語知識_文法④&読解② 5 日本語能力試験N1 対策講座 読解③&聴解① 6 日本語能力試験N1 対策講座 読解④&聴解② 7 日本語能力試験N1 対策講座 模擬試験 8 解剖学用語 総論 9 解剖学用語 骨 10 解剖学用語 関節 11 解剖学用語 靭帯 12 生理学用語 総論 13 生理学用語 細胞の構造と機能 神経系 14 生理学用語 循環器系 15 生理学用語 呼吸器系		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	教育学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高木 琳太郎	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>私たちが関わってきた（関わっている）教育を考えてみることを通して、私たちがほかの人々、物事とともに生きてきた（生きている）日常・社会・世界・関係性について、立ち止まって考えてみる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 階段のぼりと勉強 2 階段のぼりと勉強 3 狼に育てられた子ども 4 狼に育てられた子ども 5 養生 6 養生 7 「生命場」 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森川 あやこ 赤松 真吾	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>自分自身の性格を知った上で、自身が集団においてどのように振る舞えるのか、振る舞うべきなのかを学び、さらに臨床実習に必要な対人スキルを学ぶ。</p> <p>それらを理解したのち、社会人としてだけではなく、さらに医療を担う者として、どのようなコミュニケーション能力が必要か、また患者に対して、チーム医療としてのコミュニケーションの重要性を学び、実技を交えて習得していくことを目標とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介、他己紹介のためのコミュニケーション① 2 自己紹介、他己紹介のためのコミュニケーション② 3 電話対応、挨拶、お礼、お詫び 4 コミュニケーション概論 5 医療者に必要な身なり、態度を理解する 6 自身の態度を知る。ポーターの態度類型 7 理学療法士の学生に求められる態度を考える 8 言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション 9 観察する力と傾聴する力について考える。身につける。 10 傾聴実践 11 社会人のマナーとしてのコミュニケーション 12 OSCEを使用したコミュニケーションの実践練習 13 臨床で役立つコミュニケーション① 14 臨床で役立つコミュニケーション② 15 実際の患者を想定したコミュニケーションの実践 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、提出物、筆記試験で総合的に評価する。		
教科書 Textbooks	「PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版」 医学書院		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	野村 昌弘	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション 2 心理学の変遷 3 学習と行動 4 知覚・感覚 5 思考 6 記憶と忘却 7 感情 8 欲求・動機付け 9 知能 10 性格 11 発達① 12 発達② 13 発達③ 14 発達④ 15 社会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席・コメントペーパー 50%、期末テスト 50%		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	公衆衛生学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	村上 由希	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどのような集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。</p> <p>一般目標（GIO）：現代社会における公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。</p> <p>行動目標（SBOs）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動を実践できる力を養成する。 		
授業計画 Course Content	<ul style="list-style-type: none"> 1 衛生・公衆衛生学序論 2 保健統計・疫学 3 感染症対策・国際保健・災害医療と健康危機管理 4 環境保健・地域保健と保健行政 5 母子保健・学校保健 6 成人保健・産業保健 7 高齢者の保健・医療・介護 8 精神保健・障害者の保健・難病対策 		
成績評価等	定期試験 60点で合格		
教科書 Textbooks	「シンプル衛生 公衆衛生学」 南江堂		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	人間工学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	岡田 明	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適につくることが、今強く求められている。老若男女、少数派・多数派を問わず、豊かで健康的な生活を送るためには必要不可欠なことである。それを実現するためには、こうした空間や機器が、人間そのものに適合するようにデザインされなければならない。</p> <p>人間工学はそれを支援する学問分野である。すなわち、生活を営む人間の形態や生理的・心理的機能を明らかにし、それを機器や環境の設計に結び付けていくことを目的としている。その点、これからの設計者やデザイナーに必要な不可欠な素養といえる。</p> <p>講義では、居住空間や住宅設備・生活機器等を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、設計のガイドラインや方法を紹介していく。毎回1つのテーマをとりあげ解説していく。</p>		
授業計画 Course Content	<p>毎回1つのテーマを取り上げていく。全体は2部構成となっており、第1部では人間の基本的な諸機能・諸特性を中心に説明し、第2部では介護やリハビリに関連する応用的な内容を紹介する。</p> <p>〔第1部〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション ー人間工学とは何か、どう役立つのか 2 人間工学の具体化をイメージする ーイスのデザインを事例として 3 モノづくりは人の寸法を知ることから始まる ー人体寸法とデザイン 4 悪い姿勢が体を壊す ー運動機能と身体負担 5 感覚は五感だけではない ー感覚の種類と視覚機能 6 人はどのように見ているのか ー視覚の生理学 7 人は見たモノをどのように感じているのか ー視覚の心理学 8 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン 9 わかりやすさをデザインする ー人の認知特性と安全設計 10 ストレスは悪者ではない ー疲労・ストレスと快適性デザイン 12 誰もが目的を達成できるモノのデザイン ーユニバーサルデザインと人間工学 <p>〔第2部〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 11 エイジングと高齢者の居住環境 ー高齢社会に対応したモノづくり 介護とリハビリの人間工学的視点 13 リハビリの安全と生理 14 演習：病院のユニバーサルデザイン 15 まとめと明日の人間工学の課題 		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	毎時間後の授業コメント＋試験＋レポート		
教科書 Textbooks	「初めて学ぶ人間工学」理工図書		
備考 Other Comments	毎時間プリントを配布、プリント中に必要事項を書き込んで講義ノートが完成		

《専門基礎分野》 =人体の構造と機能と心身の発達=

科目名 Course title	専門基礎概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛・山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士養成校では、解剖学、生理学、運動学を基礎として作業療法士としての医学的知識、技術を向上させていく必要がある。それらの科目を十分に理解するためには、高校までに学習したことの復習を行うとともに、国家試験を見据えた基盤作りを行う必要がある。また、実習記録や国家試験対策として、文章の理解、文章作成をすることは、医療従事者にとっても重要となるため、国語の知識は必要となる。この科目は高校までで学んでおくべき知識の復習も兼ねて学習し、作業療法学の基盤になる知識の理解と定着、応用ができるようになることを目標とする。さらに、生理学では特に重要となる筋肉の収縮についても深く学習する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 国語① 医療従事者に必要な文章作成の基礎を知り、事実の列挙の方法を学ぶ。 2 国語② 事実から意見を述べる練習をし、根拠ある文章作成の基礎を学ぶ。 3 生理学① 細胞の構造、各機関の役割を知り、体内反応との関連性を知る。 4 生理学② 細胞分裂、発生を学び、人の体の成り立ちの基礎を学ぶ。 5 生理学③ 国家試験問題を閲覧し、基礎を学ぶ。 6 解剖学① 骨・筋・神経（内部）について学ぶ。 7 解剖学② 内臓系について学ぶ。 8 解剖学③ 国家試験問題を閲覧し、基礎を学ぶ。 9 運動学① 運動方向・関節について学ぶ。 10 運動学② 骨・筋・神経（外部）について学ぶ。 11 運動学③ 国家試験問題を閲覧し、基礎を学ぶ。 12 筋肉の収縮① 骨格筋の構造、筋原線維、線維の型など 13 筋肉の収縮② 骨格筋・心筋・平滑筋の比較、滑り説、分子機構など 14 筋肉の収縮③ 興奮収縮連関、収縮の諸型、力学的性質など 15 筋肉の収縮④ 収縮記録、エネルギー発生と代謝など 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>提出物</p> <p>小テスト</p> <p>定期試験</p>		
教科書 Textbooks	PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800／南江堂		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	解剖学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 2 単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>解剖学は医療を志す者にとって基本の学問であり、人体の構造を理解することは必須である。解剖学 I ではヒトの骨格と関節、靭帯について講義する。</p> <p>骨学の総論では骨の基本的構造や発生、リモデリングなどについて、各論では頭蓋骨～足の骨までを順々に解説する。</p> <p>関節、靭帯の総論ではそれぞれの基本的構造や分類などについて、各論では頭蓋骨～足の連結までを順々に解説する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 骨学総論 1 2 骨学総論 2 3 頭蓋 1 4 頭蓋 2 5 脊柱 1 6 脊柱 2 7 胸郭 1 8 上肢 1 9 上肢 2 10 上肢 3 11 下肢 1 12 下肢 2 13 下肢 3 14 関節、靭帯の総論 1 15 関節、靭帯の総論 2 16 頭蓋の連結 17 脊柱の連結 18 胸郭の連結 19 上肢の連結 1 20 上肢の連結 2 21 上肢の連結 3 22 下肢の連結 1 23 下肢の連結 2 		
成績評価	定期試験：100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院		
備 考 Other Comments	必要に応じて骨格模型を使用		

科目名 Course title	解剖学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高森 康晴	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士として必要かつ重要な筋系および神経系の基本構造を学び、それらのはたらきや相互作用・相互関係を理解する。</p> <p>筋系の一般的な構造を総論で解説し、次に主要な筋の起始、走行、停止、作用、支配神経について詳しく講義する。</p> <p>神経系については中枢神経と末梢神経の基本的な構造とはたらきを述べ、特に伝導路において各神経間のつながりについて詳しく講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 筋系総論 2 筋系 体幹1 頭部 3 筋系 体幹2 頸部 4 筋系 体幹3 胸部 5 筋系 体幹4 腹部 6 筋系 体幹5 背部 7 筋系 上肢1 上肢帯・上腕 8 筋系 上肢2 前腕1 9 筋系 上肢3 前腕2 10 筋系 上肢4 手 11 筋系 下肢1 下肢帯 12 筋系 下肢2 大腿 13 筋系 下肢3 大腿・下腿 14 筋系 下肢4 下腿 15 筋系 下肢5 足 16 神経系 総論 17 神経系 中枢1 18 神経系 中枢2 19 神経系 中枢3 20 神経系 末梢1 21 神経系 末梢2 22 神経系 末梢3 23 神経系 末梢4 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験： 100%		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 医学書院		
備 考 Other Comments	<p>講義は教科書の流れに沿って、パワーポイント（スライド）を用いて行う。</p> <p>パワーポイントの内容をプリント化し、授業資料として配布する。</p> <p>国家試験の過去問を授業時に紹介することにより、必要な知識を自覚し学習意欲を高めることを目指す。</p> <p>骨格模型の閲覧時間を設けて運動器の構造と一の立体的な理解を深めることを目指す。</p>		

科目名 Course title	解剖学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めていきたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する 2 細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 3 細胞分裂、組織：上肢組織 4 組織：支持組織、筋組織、神経組織 5 血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 6 刺激伝導系、体循環系動脈（総頸動脈、外頸動脈） 7 動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 8 静脈：脳、上肢、奇静脈系 9 静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 10 リンパ系：リンパ本幹、リンパ節 胸腺、脾臓 11 消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 12 消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 13 消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 14 消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 15 腹膜、間膜 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（100%）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」 南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	前田 裕子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅴでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。</p> <p>以下の項目をスライドを使いながら説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 2 呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、縦隔 3 泌尿器系：腎小体、尿細管 4 泌尿器系：腎の機能、尿管、膀胱、排尿器構 5 男性生殖器：精巣、精子の発生、精巣上体 6 男性生殖器：精管、付属器官、陰茎 7 女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体 8 女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、会陰 9 女性生殖器：胎児の成長、胎盤 10 内分泌系：下垂体、甲状腺、上肢小体 11 内分泌系：副腎、膵臓、性ホルモン 12 皮膚：表皮、真皮、皮膚腺、皮膚感覚 13 眼：眼球の構造 14 眼：眼の付属器官 耳：外耳、鼓膜 15 耳：中耳、内耳の構造 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。(100%)		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」 南江堂 「日本人体解剖学 下巻 改訂20版」南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	生理学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	身体機能発現の基礎となる細胞レベルでのメカニズムを学ぶ。細胞における生命諸反応をマイクロ視点で探り、その後細胞群が組織、器官を形成し、コミュニケーションをとりながら複雑な機能発現を成すしくみを理解する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 一般生理 (生理学) 2 一般生理 (生命現象・ホメオスタシス・フィードバック) 3 一般生理 (人体構成物質・細胞構造) 4 細胞機能 (細胞小器官) 5 細胞機能 (細胞膜の物質移動) 6 細胞機能 (調節メカニズム) 7 細胞機能 (シグナル伝達・受容体) 8 興奮発生と伝達 (興奮性細胞・神経系の基本・活動電位と局所電位・静止電位) 9 興奮発生と伝達 (細胞膜イオン透過性の変化) 10 興奮発生と伝達 (イオンチャネル・パッチクランプ) 11 興奮発生と伝達 (活動電位の伝導と特性・ λ と τ ・跳躍伝導) 12 興奮発生と伝達 (単・二・三相性活動電位・複合活動電位・軸索輸送) 13 シナプス伝達 (興奮性・抑制性・シナプス小胞) 14 シナプス伝達 (神経伝達物質・神経伝達物質受容体・神経回路網) 15 シナプス伝達 (ニューロン結合の基本型・可塑性・神経の変性・再生・成長)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「生理学テキスト第9版」文光堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 循環系の機能① 心臓の構造と心筋の働き 2 循環系の機能② 心電図 心臓ポンプ機能 3 循環系の機能③ 血管の構造と働き リンパ管系 4 循環系の機能④ 血圧とその調整 5 循環系の機能⑤ 局所の循環 6 呼吸の生理学① 呼吸器系の構造 換気の仕組み 7 呼吸の生理学② 肺機能 ガス交換とガス分圧 8 呼吸の生理学③ 呼吸の調整 呼吸の異常 9 自律神経系と内臓機能① 交感神経系と副交感神経系 10 自律神経系と内臓機能② 自律機能の中枢 内臓反射 11 消化と吸収① 消化管の基本的構造 口腔内と胃内の消化 12 消化と吸収② 小腸内の消化と吸収 13 大腸の働きと排便 肝臓の機能 14 栄養と代謝① 基礎代謝と栄養所要量 15 栄養と代謝② 三大栄養素の中間代謝 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>筆記試験を行い、100点満点中60点以上で合格とする。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「シンプル生理学 改訂第8版」南江堂</p>		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	生理学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	種村 麻里	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問です。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的なしくみを解き明かすものです。</p> <p>特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上でその生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となります。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 体液とその調整① 体液の区分と組成 酸塩基平衡の調整 2 血液の生理① 血液の組成 細胞組成 3 血液の生理② 血液凝固 血液型 免疫機構 4 体温とその調節① 体温の区分と生理的変動 熱産生 5 体温とその調節② 熱放散 発熱とうつ熱 6 尿の生成と排泄① 肝臓の機能的構造 糸球体濾過 7 尿の生成と排泄② 尿細管における再吸収と分泌 8 尿の生成と排泄③ 尿の成分 畜尿と排尿 9 内分泌系の機能① ホルモンの一般的性質と分泌調節 10 内分泌系の機能② 視床下部 下垂体ホルモン 11 内分泌系の機能③ 甲状腺のホルモンと骨代謝 膵臓のホルモン 12 内分泌系の機能④ 副腎のホルモン 13 内分泌系の機能⑤ 精巣、卵巣のホルモンと生殖 14 感覚系の構造と機能① 感覚の一般的性質 体性感覚 15 感覚系の構造と機能② 嗅覚と味覚 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行い、100点満点中60点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学 改訂第8版」南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅰ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体運動の仕組み（身体の機能・構造）、及び、身体運動の特性について学ぶ。</p> <p>これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ることで、①障害の回復の手段を見いだす ②残存機能を応用させたADL（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。この講座では、主に上肢帯について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>人間の正常な機能構造を理解する</p> <p>機能構造から起こる運動の特性について理解する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動学とは 2 上肢帯と肩関節の運動の概要 3 上肢帯の機能構造 4 鎖骨の運動 5 鎖骨と肩甲骨の連結について 6 肩甲骨の運動 7 肩関節の運動（肩関節の機能構造） 8 肩関節の運動（肩関節と上腕骨の関係性） 9 肩関節の運動（形状に伴う運動の特性） 10 肩甲骨の運動（運動方向） 11 肩甲骨の運動（肩甲上腕リズム） 12 肩関節周囲の筋肉（頸部から肩甲帯） 13 肩関節周囲の筋肉（肩甲骨周囲および胸郭） 14 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲） 15 肩関節周囲の筋肉（肩関節周囲および上肢） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	<p>「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版</p> <p>「カバンジー機能解剖学Ⅰ 上肢 原著第7版」医歯薬出版</p> <p>「15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店</p>		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学（上肢）Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体運動の仕組み（身体の機能・構造）および身体運動の特性について学ぶ。</p> <p>これは、実際の治療・援助を行うにあたり正常な動きを知ること、①障害の回復の手段を見いだす ② 残存機能を応用させたADL（日常生活動作）の向上を図るといった事柄に応用される。</p> <p>この講座では、上肢から手指、把持することについて、学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 上腕から前腕の構造について（概要） 2 肘関節の関節構造について 3 肘関節の関節構造について（関節包・靭帯） 4 肘関節の構造と運動（関節形状に伴う特性） 5 肘関節の運動 6 前腕の構造 7 前腕の運動 8 手根骨の機能解剖 9 手関節の機能構造 10 手関節の運動（形状に伴う特性） 11 手の役割、手の多機能性 12 手関節と手指の運動 13 手指の運動（関節構造と靭帯） 14 上腕の筋群 15 前腕および手内在筋群 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「カバンジー機能解剖学Ⅰ 上肢 原著第7版」医歯薬出版 「15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習」中山書店		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹)Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動学とは何か 2 力学の基礎①（てこの原理、作用・反作用・力のつりあい） 3 力学の基礎②（ベクトル、滑車、仕事） 4 関節の分類、関節運動の表現法 5 股関節の運動学①（関節の特徴、靭帯） 6 股関節の運動学②（関節の動き、筋肉） 7 股関節の運動学③（屈曲、伸展） 8 股関節の運動学④（外転、pauwelsの理論） 9 股関節の運動学⑤（内転、内・外旋） 10 膝関節の運動学①（関節の特徴、半月板） 11 膝関節の運動学②（側副靭帯、十字靭帯） 12 膝関節の運動学③（屈曲、伸展、膝蓋骨の役割） 13 膝関節の運動学④（Screw-home movement、筋肉、伸展機構） 14 膝関節の運動学⑤（半月板の形態と働き、膝関節の安定性） 15 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席状況、終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	運動学(下肢・体幹)Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>下肢・体幹の運動学は理学療法士の分野と思われがちであるが、作業分析や日常生活活動を評価するにあたっては重要な分野である。解剖学で学んだ骨、筋肉の知識をもとに各関節が動くメカニズムについてわかりやすく講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 足関節の運動学①（関節の特徴、足を構成する骨の特徴） 2 足関節の運動学②（距腿関節、距骨下関節） 3 足関節の運動学③（ショパール関節、リスフラン関節） 4 足関節の運動学④（中足間関節、中足指節関節、趾節間関節） 5 足関節の運動学⑤（足底弓蓋） 6 脊柱の運動学①（脊柱の特徴、motion segment、） 7 脊柱の運動学②（椎間関節、関節包内運動、頸椎の運動） 8 脊柱の運動学③（椎間円盤、胸椎の運動） 9 脊柱の運動学④（胸椎の運動、胸郭の運動） 10 脊柱の運動学⑤（腰椎の運動、仙腸関節） 11 歩行と走行①（歩行周期、走行との違い） 12 歩行と走行②（歩行周期と重心移動、関節角度の変化） 13 歩行と走行③（歩行時の筋滑動、異常歩行） 14 歩行と走行④（床反力、Floor-foot clearance、double knee action） 15 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席状況 ②レポート（開講後提示予定） ③終講試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学 第6版 補訂」医歯薬出版 「図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編」協同医書出版社		
備考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学 I (運動)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	(運動発達) ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後10ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、 認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content (予定)	1 オリエンテーション 2 新生児 3 頭部のコントロール 4 抗重力活動 5 立ち直り運動 6 座位・立位・歩行技能 7 視覚技能 8 上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	人間発達学Ⅱ（心理）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	三枝 好恵	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>(発達心理)</p> <p>子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達とは—発達心理学の基礎 2 乳幼児期の発達 3 言葉の発達① 4 言葉の発達② 5 心の理論 6 児童期のころ 7 青年心理学 8 老年心理学—認知症の理解 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 発達心理 テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	Cross basic リハビリテーションテキスト 人間発達学 メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	病理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	廣石 伸互	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。</p> <p>本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 病理学とは 2 細胞・組織の損傷 3 炎症 4 免疫 5 アレルギー 6 感染症 7 呼吸器障害 8 循環器障害 充血とうっ血 9 循環器障害 虚血と梗塞 10 代謝障害 11 先天性異常の分類 12 先天性異常 染色体異常と遺伝子異常 13 腫瘍とは何か 14 悪性腫瘍の広がりと言響 15 脳・神経系の疾患 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 定期試験 (100%)		
教科書 Textbooks	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学」医学書院		
備 考 Other Comments	講義内容は理解度に応じて変更することがある。		

科目名 Course title	神経内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	神経内科学の総論について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content (予定)	<p>主要神経症候</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動麻痺 2 運動失調 3 錐体外路症候 4 姿勢反射障害と姿勢異常 5 痙攣とミオクローヌス 6 筋萎縮 7 歩行障害 8 感覚障害 9 疼痛 10 脳神経障害 11 構音障害、嚥下障害、球麻痺症候 12 意識障害 13 高次脳機能傷害 14 自律神経症候 <p>臨床検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 画像検査・電気生理学的検査 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 授業の終了時(学期末)にテストをする。		
教科書 Textbooks	(予定)「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	辻井 啓之	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	1. 現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 2. 精神と脳の関係を考える。 3. 疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。		
授業計画 Course Content (予定)	1 講師の自己紹介 この授業全体の概要 精神医学について 認知症症例 2 アルツハイマー型認知症 症例および解説 ニューロンとシナプス 心とは何か 3 脳血管性認知症 症例および解説 4 さまざまな認知症 クロイツフェルトヤコブ病、ハンチントン病など 5 統合失調症 破瓜型 症例および解説 統合失調症概説 6 統合失調症 緊張型 症例および解説 統合失調症の発病 精神科病棟について 7 統合失調症 妄想型 症例および解説 統合失調症の経過 慢性期 8 統合失調症の治療およびリハビリテーションを考える 9 気分障害 症例と解説 気分障害概説 10 気分障害 バーンアウト 症例と解説 気分障害経過 11 気分障害 躁病 症例と解説 気分障害治療 12 気分障害 生活上の注意点 ストレスへの対処を考える 13 薬物依存 症例アルコール依存症 1 薬物依存概説 14 薬物依存 症例アルコール依存症 2 アルコール依存症者の生活史 15 薬物依存 タバコおよびその他の薬物 依存とは アルコール依存症の治療		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験で評価します		
教科書 Textbooks	(予定) 標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版増補版 医学書院		
備 考 Other Comments	適宜プリントを配布します		
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床心理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 京子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content (予定)	(15回で行う) 1 臨床心理学について 2 パーソナリティ 3 アセスメント 4 発達と心理的問題 5 心理的介入 6 臨床心理学の応用 7 国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験・レポート・授業中の態度など。		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論 第3版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講座の到達目標は、作業療法について学んでいくにあたり、より広義であるリハビリテーションの概要を理解することである。</p> <p>到達目標を達成するために、まず、リハビリテーションの定義・歴史について講義したうえで、生活・健康の概念についてみていき、疾病・障害・生活機能を分類する概念について解説していく。続いて、一般化されている患者・障害者の心理的な側面についてみるとともに、リハビリテーションが進められる流れ、リハビリテーションの形態について講義する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの理念（前半） <ul style="list-style-type: none"> ・①歴史・定義 ②ハビリテーション ③ノーマライゼーション ④自立生活 2 リハビリテーションの理念（後半） <ul style="list-style-type: none"> ・⑤健康に関連する概念（QOL） ⑥生活・ライフスタイルと健康 3 疾病・生活機能の概念と分類（前半） <ul style="list-style-type: none"> ・①病気の定義と国際疾病分類（ICD） ②国際障害分類（IDIDH） 4 疾病・生活機能の概念と分類（後半） <ul style="list-style-type: none"> ・③国際生活機能分類（ICF） 5 患者・障害者の心理・社会的側面 <ul style="list-style-type: none"> ・①患者・障害者心理 ②心理的適応の過程 ③心理教育（患者教育、家族教室） ④社会参加を支える法制度 6 リハビリテーションの進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・①リハビリテーション関連職種 ②チームアプローチ ③ケース会議（評価会議） ④リハビリテーションプログラム ⑤クリニカルパス 7 リハビリテーションの諸相 <ul style="list-style-type: none"> ・①医学的リハビリテーション ②教育的リハビリテーション ③職業的リハビリテーション ④社会的リハビリテーション ⑤地域リハビリテーション ⑥予防と健康管理 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験		
教科書 Textbooks	田島文博 編著：リハビリテーション概論 改訂第4版. 永井書店. 2021		
備 考 Other Comments	参考図書：中村隆一・佐直信彦：入門リハビリテーション概論 第7版増補. 医歯薬出版. 2013 「ICF 国際生活機能分類」中央法規		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員2年の経験を有する。		

科目名 Course title	社会福祉学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	後藤 登美子	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives (予定)	<p>社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。</p> <p>尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは 2 福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 3 わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 4 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について 5 自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 6 児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV問題について 7 高齢者の福祉 介護保険制度について 8 利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験・平常点 (レポート等)		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	多職種連携学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>本講座の到達目標は、作業療法士とともにリハビリテーションを担う職種との連携を理解することである。到達目標達成に向け、連携に関する概念を学んだうえで、看護師・理学療法士・言語聴覚士と特に連携することが多い職種の概論を講義する。その後、作業療法士単独ではなく、職種間で連携することで得られる効果について検討していく。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 【作業療法士 (OT)】 リハビリテーション関連職種と連携 2 【作業療法士 (OT)】 チームアプローチ 3 【看護師 (Ns)】 看護とは 4 【看護師 (Ns)】 看護の提供者とその仕組み 5 【看護師 (Ns)】 看護過程について 6 【看護師 (Ns)】 チームアプローチを行ううえで療法士に期待すること 7 【理学療法士 (PT)】 理学療法の基礎概念 8 【理学療法士 (PT)】 理学療法の実際 (1) 9 【理学療法士 (PT)】 理学療法の実際 (2) 10 【理学療法士 (PT)】 チームアプローチを行ううえで OT に期待すること 11 【言語聴覚士 (ST)】 言葉とコミュニケーション 12 【言語聴覚士 (ST)】 言語障害の種類と接し方 (1) 13 【言語聴覚士 (ST)】 言語障害の種類と接し方 (2) 14 【言語聴覚士 (ST)】 摂食嚥下障害 15 【作業療法士 (OT)】 チームアプローチを効果的に進めていくために <p>※理学療法学科・作業療法学科・看護学科学学生にて一症例についてグループワーク実施し、発表予定。 看護師 (NS)・作業療法士 (OT) 教員講義回数の変動あり。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 ST (國守) : 筆記試験・レポート課題 NS・PT・OT : 筆記試験</p>		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法概論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法の基礎となる「作業」や「活動」とはなにか、「作業療法とは」「作業療法士とは」ということをその言葉の意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、今後につなげていけるようになることを目的とする。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業とは？作業療法とは？ 2 作業療法の理論・理念・関連法規 3 作業療法の歴史 4 作業療法の倫理 5 作業療法士に求められるもの 6 作業療法と ICDH と ICF 7 EBM と作業療法 8 他職種連携：チームアプローチ 9 作業療法の現場・対象・病期 10 作業療法における思考過程 11 作業療法の過程：評価、統合と解釈、計画立案 12 領域別作業療法の実際 13 領域別作業療法の実際 14 作業療法にかかわる医療・福祉制度 15 作業療法部門の管理・運営 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法学概論 第5版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員5年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業分析学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	藤 善 将	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 後期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたいうで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点を持ち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業療法についての振り返り 2 作業療法の理解に向けたグループワーク 3 活動分析（前開きシャツ・靴下など） 4 分析結果の発表・ディスカッション 5 巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク 6 分析結果の発表・ディスカッション 7 食べる行為についての作業分析（グループワーク） 8 分析結果の発表・ディスカッション 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員 6 年及び臨床 2 5 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	植村 博也	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法の治療媒体としての作業活動の中から代表的な革細工と陶芸を通して、材料と道具の使い方とその管理方法、作品制作の手順を理解する。</p> <p>作品制作を通し作業分析的視点から、作業療法における作業活動の意味を考える。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 コースオリエンテーション 2 陶 芸 荒練り、菊練りの実技 3 手びねりでのぐい飲み 4 ひもづくりでの湯呑み 5 たたらづくりによる花瓶 6 ひもづくりでの灯籠 7 ひもづくりでの灯籠、素焼き 8 施釉、本焼き 9 革細工 小銭入れ 10 スタンピング 11 染色 12 かがり、ホックつけ 13 コースター 14 カービング 15 染色 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	作品提出、レポートの総合により成績を判定する。		
教科書 Textbooks	「基礎作業学実習ガイド」協同医書出版社		
備 考 Other Comments	実習科目なので作品提出とレポートを重視する。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 17 年及び教員 15 年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎作業実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>【一般目標】</p> <p>作業療法としての木工作業とレクリエーションを体験する。</p> <p>木工：工程や必要な道具・材料について、包括的作業分析の手法を学ぶ。</p> <p>レクリエーション：計画立案・発表を通して、作業療法として実践的にレクリエーションを行う手法を学ぶ。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① 製作する木工作品を自身で決定し、与えられた設定の中で作品を完成することができるようになる。</p> <p>② 木工作業の体験をする中で、作業療法に必要な要素を考えながら、作業分析の視点を養う。</p> <p>③ 体験した木工作業を、包括的作業分析をしてレポートにまとめることができる。</p> <p>④ 作業療法として行うレクリエーションの必要性を理解する。</p> <p>⑤ レクリエーションの計画立案・発表を通して、適切な計画、実施ができるようになる。</p> <p>⑥ レクリエーションを実施される側の視点で、他者の実施を評価できるようになる。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1～2 オリエンテーション：作業分析とは・レクリエーションとは。(座学)</p> <p>3 レクリエーション：レクリエーション体験</p> <p>4～5 レクリエーション：レクリエーション計画</p> <p>6～7 レクリエーション：レクリエーション発表</p> <p>8 木工：木工とは(座学) 作品設計図作成</p> <p>9～15 木工：作品作成</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>①木工(65%)：作品(25%)とレポート(包括的作業分析)(40%)</p> <p>②レクリエーション(35%)：計画書と発表内容</p> <p>※木工作品及びレポートが期限内に提出がない場合は不可とし、再試験として再提出を求める。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員5年の経験を有する。		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	作業療法評価法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法の治療、援助の計画を立案する為には、対象者の状況を正しく把握することが重要です。本稿では、正しい情報を得られるように評価の基本的な視点を学びます。また、評価は随時見直し、検討する必要があります。評価の流れについても習得することを目標とします。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 評価の意義と目的、開かれた問題と閉じられた問題 2 ONE BEST SOLUTION はない！、クイズとパズル、問題認識 3 責任者は自分自身、評価の目的 4 評価の過程、評価のプロセス 5 各段階の特質①（情報収集、初回評価、ゴール設定） 6 各段階の特質②（OT 実施計画の立案、OT の実施） 7 各段階の特質③（再評価、フォローアップ、記録を書く際の基本的知識と原則） 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①終講試験 ②出席状況		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員26年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士として対象者を評価する上で、必要な評価技法を学ぶ。</p> <p>主としてバイタル・身体計測・反射。</p> <p><到達目標></p> <p>1 : バイタル・身体計測・反射において各々の項目の検査意義や定義、注意点など各々にかかわる項目を理解し述べるができる</p> <p>2 : バイタル・身体計測・反射において測定手技を身につけ、誘導・説明から検査開始、終了まで滞りなく適切に行うことができる</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 作業療法評価技法総論：評価とは？評価技法とは？評価技法の位置づけなど</p> <p>2 作業療法評価技法総論：評価結果の統合と解釈など捉え方</p> <p>3 バイタルサインとは：古典的および現代的バイタルサインとは。それらを測定する技術と意味。血液検査等の略語と標準数値について</p> <p>4 バイタルサインとは：測定実技</p> <p>5 バイタルサイン測定の実技テスト（実技・口頭試問）</p> <p>6 形態測定とは：測定実技</p> <p>7 携帯測定実技テスト（実技・口頭試問）</p> <p>8 反射とは：反射検査の意義・反射の種類</p> <p>9 反射と姿勢筋緊張</p> <p>10 反射の経路など生理学的基礎について</p> <p>11 深部反射（伸張反射）：深部反射の持ちうる意味と測定技法</p> <p>12 病的反射：病的反射の種類と意味、原始反射や上位中枢からの抑制について</p> <p>13 病的反射：測定技法</p> <p>14 表在反射：表在反射の種類と意味、測定技法</p> <p>15 反射の実技テスト（実技・口頭試問）</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>単位認定は、終講試験。この授業は医療現場での実践を想定しており、受講態度、実習に不適切な風貌は減点対象とする。授業では計測、血圧測定、反射テストの3つについて実技試験を行うので、授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院</p> <p>「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂</p>		
備 考 Other Comments	<p>実技習得のため練習をしっかりと行うこと。わからない場合は積極的に教員に質問して解決の糸口を見つげられるようにすること。</p>		
実務経験内容	<p>作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／演習実習	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法評価技法Ⅰに続き、作業療法士として評価する上で、必要な評価技法（検査測定の方法）を学ぶ。主には、関節可動域（ROM）測定と感覚検査。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ROM測定および感覚検査の定義・種類・適応・測定方法・測定における留意点を述べるようになる ② ROM測定および感覚検査実施にあたり、被検者を誘導し、検査のオリエンテーションを行い、適切な測定を実施できる 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 講座のオリエンテーション、ROM定義・関節の構成要素・基礎知識 2 最終域感（生理的・病的）・姿勢の名称・ROM測定のための道具 3 ROM測定の手順・測定の注意事項・測定の正確性に影響する因子 4 ROM測定実技練習 （肩関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、水平屈曲－伸展、） 5 ROM測定実技練習 （肘関節：屈曲－伸展、手指：屈曲－伸展、外転－内転、前腕：回内-回外） 6 ROM測定実技練習 （母指：掌側外転－橈側外転、手指：屈曲－伸展、外転－内転） 7 ROM測定実技練習 （股関節：屈曲－伸展、内転－外転、内旋－外旋、膝：屈曲－伸展） 8 ROM測定実技練習 （足関節：底屈－背屈、外転－内転、内がえし－外がえし、肩甲骨：挙上－下制、 屈曲－伸展） 9 ROM実技練習 （体幹と頸部：屈曲－伸展、側屈、回旋） 10 ROM実技テスト 11 感覚・知覚：定義、意義、表在感覚と深部感覚の違い、伝導路の違い 12 深部感覚の伝導路、防御知覚の伝導路、感覚テストの方法、オリエンテーションの仕方、痛覚・触覚のテストについて 13 感覚検査の実技練習 14 感覚検査の実技練習 15 感覚テスト 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>単位認定は、終講試験（100%）で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象。</p> <p>ROM測定、感覚テストの2つについて実技試験を行って授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」南山堂</p>		
備考 Other Comments	<p>実技はしっかり練習すること。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。</p>		
実務経験内容	<p>中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験8年の経験を有する。</p>		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	身体障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	1年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害領域疾患別作業療法を理解するための基礎を学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <p>①身体障がい作業療法対象者の主な症状を理解し介入方法を理解する</p> <p>②症状別の治療原理を中心に専門基礎科目、基礎科目とのつながりを理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 身体障害領域作業療法の概要、作業遂行モデル 2 治療の連続性、治療方法（Bottom-up approachとTop-down approach） 3 〔作業遂行を行う運動のメカニズム〕物理学的な基礎知識と身体運動の基礎知識 4 〔筋緊張の異常とその治療〕関連用語、基礎知識、筋緊張異常を起こす疾患 5 筋緊張異常の発生機序 筋緊張の評価、痙性筋に対する治療手技と作業療法による介入 6 〔不随意運動とその治療〕定義・分類 振戦症状の検討 不随意運動と障害部位との関係 評価、作業療法 〔協調運動障害とその治療〕定義・評価のための基礎知識 7 〔協調運動障害とその治療〕失調症の主な臨床症状、失調症の発生機序と原因別分類 8 〔協調運動障害とその治療〕評価（運動検査・机上検査・機器による検査） 9 〔協調運動障害とその治療〕治療手技、治療の原則、視覚を利用した方法、固有感覚を利用した方法、巧緻性訓練 10 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕筋力・筋持久力低下の要因と原理、基礎知識 11 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕評価、治療手技、筋力・筋持久力訓練を実施する前に、筋力・筋持久力訓練の種類、特殊疾患の注意点、筋力訓練指導上の注意点 12 〔筋力と筋持久力の維持・増強〕作業療法との関連 13 〔関節可動域の拡大〕用語、関節可動域制限の原因と機序 14 〔関節可動域の拡大〕評価・治療のための基礎知識、筋緊張と最終域感、関節包内運動、ROMexに使用される4つの運動、評価、治療手技、作業療法 15 〔知覚再教育〕用語、評価・治療のための基礎知識、知覚再教育プログラムの前段階、手の知覚再教育プログラム、中枢神経障害と末梢神経障害の違いを中心に 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）筆記試験については、小テストの形で分散させることあり。		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版」医学書院 その他、必要に応じて指示する		
備考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。		

科目名 Course title	動物介在療法 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	川嶋 舟	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介して行うため動物介在療法とされている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近い存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬介在療法とは何かを学ぶ。 2 馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 3 馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 4 人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ 5 馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 6 馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人にとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されるとされており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 7 馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 8 馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してするための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	地域臨床見学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	1年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本実習の主目標は、作業療法の対象領域を広く見聞することである。医療機関での作業療法士の活躍は周知されつつあるが、一方で近年、住民のニーズによって拡大されてきた地域での作業療法士の取り組みについてはまだまだ知られていない。そうした領域で活躍する作業療法士の様々な仕事を見て学ぶことで、自身の作業療法士としての将来像を構築する一助にしてもらいたい。</p> <p>本目標を達成するために、地域の作業療法関連の施設を複数かつ数日間、見学することを想定している。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(各実習施設による)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習で実施することがある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する</p>		
教科書 Textbooks	<p>なし</p>		
備 考 Other Comments	<p>なし</p>		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験 9 年の経験及び専任教員 2 7 年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験 1 5 年の経験及び専任教員 9 年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験 7 年の経験及び専任教員 6 年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験 6 年の経験及び専任教員 4 年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験 2 1 年の経験及び専任教員 3 年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験 8 年の経験を有する。</p>		

講義概要

2024年度 作業療法学科
2年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《専門基礎分野》 =人体の構造と機能と心身の発達=

科目名 Course title	運動学実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	60時間 / 演習	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講座では1学年時に習得した運動学の基礎について、実際に体を動かして起こりうる運動を分析する手法を学習し、そのメカニズムを理解する。後半の運動分析は、実際の日常生活における動作をビデオカメラ等の必要な機器を使用して分析し、考察する。		
授業計画 Course Content	<ul style="list-style-type: none"> 1・2 オリエンテーション、関節運動の考え方 3・4 筋走行と骨運動①（三角筋） 5・6 筋走行と骨運動②（肩甲骨腕リズム） 7・8 筋走行と骨運動③（菱形筋） 9・10 筋走行と骨運動④（前鋸筋） 11・12 まとめ①（グループ発表） 13・14 まとめ②（グループ発表） 15・16 運動分析①（椅子からの立ち上がり運動動作撮影） 17・18 運動分析②（椅子からの立ち上がり運動動作分析） 19・20 運動分析③（正常歩行、オリジナル歩行動作撮影） 21・22 運動分析④（立ち上がり動作分析発表） 23・24 運動分析⑤（正常歩行分析発表） 25・26 運動分析⑥（オリジナル動作分析発表） 27・28 重心と体重移動 29・30 （予備）まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①筆記試験 ②レポート ③出席状況 レポート課題は実習を進めながら作成します。筆記試験は記述式です。授業で習得した内容をしっかり理解しておくこと。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	栄養・薬理学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小橋 真弓 ・ 前田 和宏	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	1 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本講義は、リハビリテーションと栄養・代謝との関連についての理解および薬物による人間の反応の理解ができることを到達目標としている。</p> <p>したがって、栄養と代謝の概要並び代謝異常に関する講義を行い、その後栄養管理に関する内容を述べる。</p> <p>もう一つの学習目標としている薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(栄養学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栄養とは <ul style="list-style-type: none"> ・基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学の違いを知る ・5大栄養素の消化と吸収など 2 リハビリテーションに関わる栄養学 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学を中心とした内容、身体計測、血液データからの情報収集 3 病態別（疾患別）の栄養管理 <ul style="list-style-type: none"> ・主に糖尿病、高血圧、褥瘡などを例にして留意すべき点 4 補足、ふり返り、まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・講義を通してのまとめ <p>(薬理学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネージメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性 2 感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 3 循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 4 精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(栄養学) 授業態度 20%、筆記試験 80% を行い、評価する</p> <p>(薬理学) 筆記試験 (薬物学分野：100%) を行い、評価する。</p>		
教科書 Textbooks	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 医歯薬出版		
備 考 Other Comments	(栄養学) プリントを使用して授業を進める		

科目名 Course title	臨床検査学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 知子（講義・実験：筋電図） 竹村 京子（実験：脳波）	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>人は様々な身体機能、精神機能を一連に行いながら生命活動を営んでいる。そこで、個体の実際の身体状況を知るため、生化学および生理学検査により情報を数値化・データ化・図示化して状況を把握し、さらに臨床的に血液検査やレントゲン検査、運動機能検査、感覚機能検査、脳波測定などを行って、詳細な身体情報を得て療法のより適切な対応をすることは重要である。</p> <p>作業療法士においては、解剖運動生理学、その他の専門基礎科目や専門科目から基礎知識を学ぶとともに、生化学・生理学的なデータを観察して人体をより詳細に理解することが大切である。</p> <p>当科目では、①筋電測定（運動機能の基本的な要素である「筋肉」の動き）②脳波測定（意識レベルを反映する「大脳皮質で発生する電気信号」）を実験的に記録観察して、身体の運動機能・精神機能についてより一層の理解を深めることを目的とする。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その1） 2 筋電図、誘発筋電図の発生メカニズムについて（その2） 3 実習 誘発筋電図、M-H波（その1） 4 実習 誘発筋電図、M-H波（その2） 5 脳波発生のメカニズムについて（その1） 6 脳波発生のメカニズムについて（その2） 7 （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その1） 8 （実習）ヒトの脳波の記録・観察（その2） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(予定) 本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。</p>		
教科書 Textbooks	<p>(予定)「生理学テキスト第8版」文光堂</p>		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	救急医療概論（喀痰吸引を含む）	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>本講義、救急医療体制について学び、救急医療時の対応について実技も交えながら実施していく。また、救急医療現場だけでなく、その後のリハビリテーションにおいて必要とされる画像診断について学ぶ。さらに、喀痰・吸引の実践につながるように、実技を交えながらその概要について学習する。</p> <p>到達目標は、救急医療を理解すること、画像診断について説明でき、喀痰吸引を模擬実践できることを想定している。</p>		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 (救急) 救急医療体制とトリアージとは 2 (救急) 心肺停止に対する一時救命処置（実習あり） 3 (画像) 画像検査について 4 (画像) レントゲンの見方（一般） 5 (画像) レントゲンの見方（CT） 6 (画像) MRI の特徴と見方 7 (吸引) 嚥下機能と喀痰吸引の基礎知識 8 (吸引) 喀痰・吸引の実践（実技） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(予定) 本講座は、各専門職の講師によるオムニバス形式で進める。 講師ごとに筆記試験並びにレポート課題を行い、評価する。 1・2回 井上先生：授業後半の実習でチームワーク、声、手技等を評価します。</p>		
教科書 Textbooks	(予定) なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	内科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2 年次 前期 / 1 単位
授業方法 Teaching Methods	30 時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 内科学総論；内科学とは、主な疾患 2 診療の基本；カルテと問診 3 診察法（1）；バイタルサインの見方・考え方 4 診察法（2）；身体所見の取り方と疾患 5 内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 6 循環器疾患（1）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック 7 循環器疾患（2）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） 8 循環器疾患（3）；虚血性心疾患（②）、心不全 9 循環器疾患（4）；不整脈 10 循環器疾患（5）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） 11 循環器疾患（6）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 12 呼吸器疾患（1）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 13 呼吸器疾患（2）；病原微生物と呼吸器感染症 14 呼吸器疾患（3）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 15 呼吸器疾患（4）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験 35 年の経験を有する。		

科目名 Course title	内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	栗岡 英行	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。</p> <p>内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々な疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。</p> <p>特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 消化管疾患（1）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 2 消化管疾患（2）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 3 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（1）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか 4 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（2）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など 5 代謝性疾患（1）；糖尿病 6 代謝性疾患（2）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など 7 内分泌疾患 ；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 8 血液疾患（1）；血液解剖生理の復習、貧血 9 血液疾患（2）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 10 アレルギー・膠原病疾患（1）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 11 アレルギー・膠原病疾患（2）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 12 腎・泌尿器科疾患（1）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 13 腎・泌尿器科疾患（2）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 14 感染症（1）；感染症総論（感染経路、感染予防対策、治療法など） 15 感染症（2）；感染症各論（代表的な感染症） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学」南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験35年の経験を有する。		

科目名 Course title	神経内科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	森下 真次	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経内科学の各論として各疾患について医学的な理解を深める。		
授業計画 Course Content	1 脳血管障害 2 中枢神経感染症 3 パーキンソン病 4 パーキンソニズム 5 不随意運動症 6 痴呆性疾患 7 てんかん 8 脊髄小脳変性症 9 運動ニューロン疾患 10 脱髄性疾患 11 脊椎・脊髄疾患 12 末梢神経疾患 13 ミオパチー 14 自律神経疾患① 15 自律神経疾患②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	学期末のテストで評価する。		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア		
備 考 Other Comments	講義ごとにプリントを配布		
実務経験内容	医師として臨床経験38年の経験を有する。		

科目名 Course title	精神医学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	辻井 啓之	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の主要な精神疾患について、原因、病理、症状、経過治療などを理解する。 ・精神と脳の間接関係を考える。 ・疾患にかぎらず精神の様々な問題を考える。 		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 気分障害：症例、治療、注意点など 2 薬物依存、アルコール依存を中心に症例 3 薬物依存：生活史、依存、耐性 4 薬物依存：症例、離脱症状、アルコール精神病 5 薬物依存：タバコ（ニコチン） 6 薬物依存：覚醒剤、症例、その他の薬物 7 神経症性障害：概説、症例、PTSD 8 神経症性障害：症例、パニック障害、神経症病理 9 神経症性障害：症例、強迫性障害、解離性/転換性障害 10 神経症性障害：神経症病理、治療 11 てんかん：病理、症状、治療① 12 てんかん：病理、症状、治療② 13 知的障害：ダウン症など① 14 知的障害：ダウン症など② 15 補足 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	「精神医学への招待」改訂第3版 南山堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験36年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1 整形外科的基礎知識 2 整形外科治療法 3 整形外科疾患総論 4 炎症性疾患 5 代謝・退行性疾患 6 先天性疾患① 7 先天性疾患② 8 循環障害と壊死疾患① 9 循環障害と壊死疾患② 10 骨・軟部腫瘍① 11 骨・軟部腫瘍② 12 神経・筋疾患① 13 神経・筋疾患② 14 脊椎の疾患① 15 脊椎の疾患②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院 「標準整形外科学 第15版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験30年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺西 朋裕	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	1 骨折① 2 骨折② 3 脊髄損傷① 4 脊髄損傷② 5 脊髄損傷問題 6 捻挫・脱臼 7 神経障害① 8 神経障害② 9 末梢神経損傷 10 腱・靭帯損傷 11 スポーツ障害① 12 スポーツ障害② 13 タナ障害 14 熱傷 15 切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版」医学書院 「標準整形外科学 第15版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	医師として臨床経験30年の経験を有する。		

科目名 Course title	小児科学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	西野 正人・福永 千佳	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>臨床経験を多く入れて症例を通して疾患概念を理解してもらいたい</p> <p>小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児の成長障害をきたす様々な症例を紹介し、内分泌・代謝性疾患への理解を深める 2 血液・免疫・救急・膠原病に関する理解を深める 3 免疫・膠原病・腎・泌尿器疾患 4 感染症・消化器疾患 5 新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 6 神経・筋・骨系疾患 7 循環器疾患、呼吸器疾患 8 習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版」医学書院		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	リハビリテーション制度論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・勝村智加・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>この科目では、リハビリテーションを支える諸制度について学ぶ。具体的には、国の社会保障制度の枠組み、制度の中でも特にリハビリテーションに関連する制度をみていく。さらに、近年構築されてきている地域包括ケアシステムおよび自立支援・就労支援に関する制度や制度を用いて行われている取り組みについて話す。</p> <p>到達目標は、講義でとらえる諸制度について概要を説明できるようになること、対象者が使用できる制度とそのサービスについて理解することである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障制度 <ol style="list-style-type: none"> I. 社会保障制度のなりたち II. 社会保険制度 III. 社会保障の財源 2 医療保険制度 <ol style="list-style-type: none"> I. 医療保険の仕組み II. 医療提供体制 3 医療保険制度 <ol style="list-style-type: none"> III. 診療報酬(診療報酬とその請求、リハビリテーションに関する診療報酬) 4 介護保険制度 <ol style="list-style-type: none"> I. 介護保険制度(介護保険制度の目的、制度創設の背景、制度の特徴、国民の義務) II. 介護保険のしくみ 5 介護保険制度 <ol style="list-style-type: none"> III 介護保険給付サービスの種類 IV. 介護報酬(介護報酬とその請求、リハビリテーションに関する介護報酬) 6 障害者・障害児サービスと就労支援 <ol style="list-style-type: none"> I. 障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳) II. 障害者総合支援法(制定された経緯、概要) III. 各種サービスと療法士のかかわり IV. 就労支援に関する施設と内容 7 予防・保健 <ol style="list-style-type: none"> I. 行政におけるリハビリテーション II. 行政リハビリテーション専門職の役割 III. 介護予防、保健指導、地域ケア会議 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験(10割)を実施する。		
教科書 Textbooks	齊藤秀之、能登真一 編：リハビリテーション管理学. 医学書院, 2020		
備 考 Other Comments	複数教員によるオムニバス形式		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

＝作業療法評価学＝

科目名 Course title	生活行為向上マネジメント	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋和奈	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>生活行為向上マネジメントの開発背景や構造を知る。</p> <p>事例を通して、情報を整理し対象者の全体像や取り巻く環境との関係について考察する。また、どのようなマネジメント方法があるかを検討していく。</p> <p>到達目標は、生活行為と生活行為の障害について説明できること、生活行為向上マネジメントのプロセスおよび各種シートの使い方を説明できること、各種シートの記載ができることである。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、開発の背景、用語の解説 2 生活行為と生活行為の障害、各種シートの使い方 3 演習①模擬事例 4 演習②模擬事例 5 演習③模擬事例 6 演習④模擬事例 7 演習⑤模擬事例 8 演習⑥模擬事例、まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（課題の発表および提出）		
教科書 Textbooks	「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版」医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	学科全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>仮定の症例について、作業療法評価計画を立案から作業療法評価レポートの作成までを演習する。その際、演習に必要な資料・文献等の収集学習や、専門基礎科目と専門科目の知識を関連づけながら考えていく論理学習等を同時に演習し、臨床実習への準備を整える。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(4 5時間で行う)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ケースレポートの書き方 2 レポートを書くときの注意事項 3 ゼミ形式で担当教員の指導の下、レポートを完成させる。 4 実習セミナーに参加し、発表を傾聴し作業療法評価について考える。 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>期日までに提出されたケースレポート及び演習中の取り組みについて評定する。</p>		
教科書 Textbooks	<p>なし</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／2単位
授業方法 Teaching Methods	60時間／演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	徒手筋力検査法について学びます。教科書的な技術を丸暗記するだけでなく、原理原則をしっかりと学ぶことで、対象者にあわせて対応できるようになることが目標です。環境設定、オリエンテーション、測定肢位など臨床的な技法も適宜取り入れながら講義を進めていきます。		
授業計画 Course Content	1 オリエンテーション・学力確認テスト 2 徒手筋力検査における基本原則 3 上肢筋の総復習、上肢帯体表解剖 4 肩関節の筋 5 肩関節の筋 6 肩関節の筋 7 肩甲骨の筋 8 肩甲骨の筋 9 肘関節・前腕の筋 10 手関節の筋 11 指の筋 12 指の筋 13 母指の筋 14 母指の筋 15 復習 16 実技試験 17 頸部の筋 18 頸部・体幹の筋 19 体幹・骨盤の筋 20 復習 21 実技試験 22 下肢・体幹筋の総復習、下肢・体幹体表解剖 23 股関節の筋 24 股関節の筋 25 股関節の筋 26 膝関節の筋 27 足関節の筋 28 復習 29 実技試験 30 実技試験		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定は、実技試験と終講時の筆記試験で実施する。ただし、本授業は医療現場での実践を想定しているため、受講態度、実習に不適切な風貌、は減点対象となる。本講義で行う実技試験は授業中ならびに後に定める実技試験の期間中に合格すること。		
教科書 Textbooks	「新・徒手筋力検査法 原著 第10版」協同医書出版 「ID触診術 第2版」三輪書店		
備考 Other Comments	実技が身につくまでには多くの練習時間を要する。学生同士技術を磨きあってほしい。講義内容・実技の方法などが分からない場合は積極的に教員に質問して補習などを受けること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。		

科目名 Course title	作業療法評価技法Ⅳ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	小澤 裕子	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	自分というフィルターを通して他者を観察・評価していくことを体験し、意識化・実務経験化する。		
授業計画 Course Content (予定)	(30時間で行う) 1 観察 2 自分を知る 3 言葉について 4 客観的事実と主観的事実 5 自己表現 6 視点を変える、視点を増やす		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート点、試験の点数を合算。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験19年の経験及び教員5年の経験を有する。		

＝作業療法治療学＝

科目名 Course title	精神障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神障害関連領域における基礎的な知識の整理（精神科医療の歴史、関係法規、社会資源、リスク管理、関連理論など）と障害特性、評価の特性を考える。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害とは・精神障害者の処遇の歴史・関連法規 2 自己理解とは？ 3 精神障害論・特性 ICF 4 精神疾患の生活のしづらさ・妄想・幻覚等症状の種類や特徴 5 評価の流れと評価手段① 面接法体験 6 評価の流れと評価手段② 箱作り体験 REHAB, LASMI 等評価バッテリー 7 精神科 OT の治療構造 回復段階 8 人と場・集団 治療因子と構造因子・集団の発達レベル 9 作業の分類 目的としての作業・手段としての作業 10 地域精神科医療（訪問・ACT） 11 リカバリーモデル・ストレングスモデル・エンパワーメント 12 就労支援① 13 就労支援② 14 認知行動療法：SST・ディベート体験 15 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験にて行う。		
教科書 Textbooks	ゴールドマスターテキスト「精神障害作業療法学」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験 7 年及び教員 6 年の経験を有する。		

科目名 Course title	老年期障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>本邦の総人口は1億2,711万人（2015年時点）だが、65歳以上の高齢者人口は3,392万人を数える。総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は26.7%であり、世界に類を見ない超高齢化社会である。総人口が減少するなかで高齢化率は上昇を続け、2060年には高齢化率は39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上となる見通しである。</p> <p>このような環境の中、国や都道府県、各市町村自治体は地域包括ケアシステムの整備をすすめるとともに、要支援認定者や事業対象者（いわゆる軽度者）の支援のあり方とリハビリテーション専門職等の関与について様々な議論をおこなっている。本講座ではこれらの取り組みを解説し、高齢者の特性や尊厳をふまえた支援について検討することで高齢者領域における作業療法のあり方を考察する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>（30時間で行う）</p> <p>1・2 高齢者の特徴と理解（市民向け講座から）</p> <p>3・4 日本のこれからの地域包括ケアシステム</p> <p>5・6 地域支援事業と総合事業 / リハ職同行訪問アセスメント</p> <p>7・8 短期集中予防サービス / 軽度者支援の実際と作業療法 ※5～8を「これからの軽度者支援」として講義</p> <p>9・10 高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など）その1 ・介護支援専門員（ケアマネージャー） ・地域包括支援センター ・言語聴覚士、歯科衛生士（口腔プログラム） ・管理栄養士（栄養改善プログラム）</p> <p>11・12 高齢者支援の実際（各専門職の関わり、紹介など）その2 ・リハビリテーションの目指すもの ・作業療法士（MTDLPも含めた） ・理学療法士（運動器の向上プログラム）</p> <p>13・14 自立支援を目的とした軽度者支援について 事例検討と演習</p> <p>15 まとめ（1～14の要約と説明、3年生の地域作業療法学へのつなぎなど）</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「老人のリハビリテーション 第8版」医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

科目名 Course title	発達障害作業療法総論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>【一般目標】</p> <p>発達障害の各論を学ぶのに必要となる、発達障害の病態や種類、作業療法の基本的な考え方を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① 基本的な原始反射を理解する。</p> <p>② 定型発達運動、感覚、遊びなどの概要を理解する。</p> <p>③ 脳性まひ児の種類や病態を理解し、作業療法の考え方を理解する。</p> <p>④ 進行性筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎の作業療法の考え方を理解する。</p> <p>⑤ 自閉症スペクトラム障害の種類や病態、作業療法の考え方を理解する。</p> <p>⑥ 発達検査の概要や意義を理解し、必要な検査が選択できるようになる。</p> <p>⑦ 感覚統合など主な理論の概要を理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>1 原始反射</p> <p>2 定型発達（粗大運動）①</p> <p>3 定型発達（粗大運動）②</p> <p>4 定型発達（巧緻運動）③</p> <p>5 定型発達（感覚・知覚・認知機能）</p> <p>6 定型発達（ADL）</p> <p>7 定型発達（遊び・社会性）</p> <p>8 発達検査</p> <p>9 脳性まひ児の病態、種類や特性</p> <p>10 脳性まひ児の作業療法</p> <p>11 自閉症スペクトラム障害の病態や特性</p> <p>12 自閉症スペクトラム障害の作業療法</p> <p>13 感覚統合、応用行動分析など</p> <p>14 知的障害、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎などの作業療法</p> <p>15 まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト、単位認定試験		
教科書 Textbooks	「Cross basic リハビリテーションテキスト 人間発達学」メジカルビュー 「作業療法学 発達障害作業療法学 第3版」メジカルビュー		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験21年及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法 I (発達疾患 I)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	黒澤 淳二	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	整形疾患、重症心身障害を中心とした疾患別の障害特性及び作業療法の進め方について、講義及びグループワークによって理解を深める。		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 DMD 児・者の概要および治療 2 DMD 児・者についてグループワーク、発表 3 重症心身障害児・者の概要および治療 4 重症心身障害児・者についてのグループワーク、発表 5 二分脊椎児・者の概要および治療 6 二分脊椎児・者についてグループワーク、発表 7 骨関節疾患児・者の概要および治療 8 骨関節疾患児・者についてのグループワーク、発表 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 試験 100%		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験32年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅱ (発達疾患Ⅱ)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	加藤 雅子	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	脳性麻痺についての概要、および障害特性によって分類されたタイプ別に、視聴覚教材を用いて臨床像や基本的問題点を確認し、障害特性のイメージと理解につなげる。また、それらの障害が、発達過程におよぼす影響についても講義し、評価～作業療法のアプローチポイントを理解する。		
授業計画 Course Content (予定)	1 脳性麻痺についての概要① 2 脳性麻痺についての概要② 3 脳性麻痺 痙直型両麻痺① 4 脳性麻痺 痙直型両麻痺② 5 脳性麻痺 痙直型片麻痺① 6 脳性麻痺 痙直型片麻痺② 7 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型① 8 脳性麻痺 アテトーゼ型・失調型②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 筆記試験および出席状況		
教科書 Textbooks	(予定) なし 資料を配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び教員29年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅲ (精神疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	精神疾患別の障害特性、作業療法の進め方について		
授業計画 Course Content	1 精神科の基礎知識① 2 精神科の基礎知識② 3 統合失調症のOT① 4 統合失調症のOT① 5 気分障害のOT① 6 気分障害のOT② 7 各種依存症のOT 8 神経性障害のOT 9 てんかんのOT 10 薬物療法 11 模擬症例の評価計画(GW) 12 精神科でかかわることのある発達障害① 13 パーソナリティ障害のOT① 14 パーソナリティ障害のOT② 15 模擬症例 評価計画発表		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	発表(40点満点)筆記試験(60点満点)		
教科書 Textbooks	中央法規：疾患の理解と精神科作業療法 その他：適宜資料配布		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	勝村教員：作業療法士として臨床経験7年及び教員6年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅳ (老年期疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高齢期分野に多い疾患やそれに対応するアプローチなどを学ぶ。また超高齢化社会となっている我が国における高齢期分野の根底となりつつある地域包括ケアシステムなどについて知り、どのような支援を行うべきなのかを考える。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期分野とは・・・老人疾患の特徴、加齢と老化 介護保険とその流れ 高齢マネジメント・地域包括ケアシステム 2 認知症とは・・・認知症全般に関連する症状・疾患など 認知症のリハビリテーションと関わり方①アルツハイマー型認知症/脳血管性認知症 3 認知症のリハビリテーションと関わり方②レビー小体型認知症/前頭側頭型認知症/その他認知症 4 HDS-R と MMSE 特徴・実技など。その他高齢期に関連する評価スケール 5 認知症の OT でよく使われる手法 脳トレ体験 6 高齢者の運動器疾患とリハビリテーション① 骨折と置換術/骨折の合併症/脱臼肢位 7 運動器不安定症・ロコモティブシンドローム 8 フレイル・サルコペニア 口腔体操体験 9 廃用症候群/誤用症候群/過用症候群 10 廃用への対応① CVA・廃用からの脱臼等の患部保護について。三角巾での保護実技 11 廃用への対応② 軽運動(棒体操)/ROMex 12 呼吸リハ① 13 呼吸リハ② 呼吸介助・胸郭ストレッチ 体験 14 地域リハ① 15 地域リハ② 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	老人のリハビリテーション 医学書院		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅴ (脳血管疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	45時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	<p>脳血管障害患者は生活習慣病の中の代表的疾患であり、医療・保健・福祉の各分野におけるリハビリテーション、とりわけ作業療法部門においては避けることの出来ない対象である。</p> <p>脳血管障害に関する発生機序、心身に及ぼす障害について理解し、対応するリハビリテーションプロセス（リハビリテーション評価の流れ、心身機能、生活障害の程度を測る各手法、対象者のリハビリテーション課題を探るポイント、社会復帰への目標設定など）について整理する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 脳の機能解剖 2 脳の機能局在 3 脳血管障害の経過 4 脳血管障害の分類 5 脳血管障害による症状① 6 脳血管障害による症状② 7 画像診断 CT 8 画像診断 MRI 9 ブルーンストロームとは 10 上田の12段階評価とは 11 上田の12段階 実技 上肢 12 上田の12段階 実技 下肢 13 上田の12段階 実技 手指 14 手指機能検査 STEF ペグ 15 作業療法評価指針① 16 作業療法評価指針② 17 ADL 評価 パーセルインデックス 18 ADL 評価 FIM 19 ポジショニング実技 20 片麻痺の基本動作 21 片麻痺の応用動作 22 作業療法治療指針 23 まとめ <p>上記の進行に沿って、座学・実技を交えて講義する。 一項目が複数回に亘ることもあり、学生にはその都度、特に実技準備品について事前連絡を講師より行う。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	①出席率 ②課題レポートの内容 ③筆記試験の採点 ④授業態度		
教科書 Textbooks	「DVD シリーズ7 PTOT のための測定評価 片麻痺機能検査・協調性検査」三輪書店		
備 考 Other Comments	パソコン・プロジェクター使用		
実務経験内容	作業療法士として教員3年及び臨床33年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅵ (整形疾患)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手の機能解剖について理解する ・ 手の外科領域の専門用語について理解する ・ 手術法、術後療法、リスク管理について理解する ・ 標準的訓練プログラムについて理解する ・ 臨床実習および卒後診療に最低限必要な技術、知識を習得する 		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 整形 OT とは、骨の機能、成長、新陳代謝、関節、関節の機能、筋、末梢神経 2 疼痛、変形、拘縮、強直、動揺関節 3 整形外科診断と検査、保存療法、手術療法 4 骨折総論① 5 骨折総論② 6 骨折総論③ 7 骨折総論④ 8 橈骨遠位端骨折① 9 橈骨遠位端骨折② 10 橈骨遠位端骨折③ 11 腱損傷① 12 腱損傷② 13 腱損傷③ 14 腱損傷④ 15 切断① 16 切断② 17 切断③ 18 切断肢の作業療法訓練 19 熱傷 20 末梢神経損傷① 21 末梢神経損傷② 22 関節リウマチ① 23 関節リウマチ② 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「リハ実践テクニック ハンドセラピー」メジカルビュー社 「リハ実践テクニック 関節リウマチ 改訂第2版」メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員27年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅶ (難病)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	高橋 敏明	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>「難病」とはその名のとおりに、根本的治療法が未だ確立されていない疾患の総称で、医療・保健・福祉の分野ではケアに長期間を要する。授業では以下の理解を深める。</p> <p>① 難病疾患に関する社会支援制度、とりわけ公的介護保険制度との関係について、</p> <p>② 代表的な神経難病についての疫学、症状、リハビリ評価、対応について整理する。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 神経難病とは 2 神経難病に関する医療、福祉制度 3 パーキンソン病とは 4 パーキンソン病の評価、作業療法 5 多発性硬化症 6 脊髄小脳変性症 7 廃用症候群について 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ol style="list-style-type: none"> ① 欠席状況、遅刻・早退 ② 定期試験採点 ③ 授業態度 <p>等で評価いたします。</p>		
教科書 Textbooks	講師作成プリント・スライド		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験33年及び教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅶ (高次脳機能障害)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	勝村 智加	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	高次脳機能について概説をした上で、諸症状別に内容及び作業療法による介入方法を知る。高次脳機能障害の各症状と作業機能障害との関連性を考え、介入方法を検討できるようになる。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 高次脳機能って？脳の局在？脳の発達と高次脳機能 2 失語症のOT① 3 失語症のOT② ブローカー ウェルニッケ 動画 4 失行症のOT コース立方体体験 5 失認症のOT① 6 失認症のOT② 7 USNのOT① 8 USNのOT② BIT 標準検査体験 9 記憶障害のOT 10 注意障害のOT① 11 注意障害のOT② TMT かなひろい ハノイの塔 レイ複雑図形 体験 12 遂行機能障害のOT① 13 遂行機能障害のOT② 14 遂行機能障害に関する検査 FABとは？BADSとは？ FAB・ストループ・動物園地図課題など体験 15 プッシャー現象は高次脳機能障害?? 振り返り・まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 (100%)		
教科書 Textbooks	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」医学書院 「リハビリテーションにおける 評価法ハンドブック - 障害や健康の測り方 - 」医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験7年及び専任教員6年の経験を有する。		

科目名 Course title	疾患別作業療法Ⅹ (脊椎損傷)	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	脊髄損傷の症状の特性を理解し、作業療法での評価・治療を含め、リハビリテーションチームとしての 関わりや社会復帰についての OT アプローチ等を学習する。		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 脊髄損傷とは 2 麻痺の特性と随伴症状について 3 受傷原因、急性期の症状と対処 4 急性期におけるリハビリテーション 5 合併症とその管理について 6 脊髄損傷者の基本動作 7 脊髄損傷者の車いすや移乗方法について 8 評価と訓練計画 9 食事、整容動作 10 排泄動作 11 更衣、入浴動作 12 住宅改修の特徴と福祉機器 13 脊髄損傷の損傷髄節レベル別の ADL の特徴 14 作業療法の具体的支援方法 15 症例検討 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 出席状況、授業態度、筆記試験。		
教科書 Textbooks	(予定)「頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第3版」協同医書出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	動物介在療法Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	山本 妃呂己、磯脇 知世	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	—
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>【講義概要】</p> <p>すでに1年次後期の動物介在療法Ⅰでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。</p> <p>この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を実践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を実践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際が多職種連携についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 馬介在療法を実践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。 ② 馬介在療法を実践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。 ③ 馬介在療法を実践する上での支援の基本的な考え方を理解する。 ④ リハ職が馬介在療法を実践する際が多職種の連携を理解する。 		
授業計画 Course Content (予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1 馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 2 馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 3 馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。 4 馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 5 馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 6 馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 7 馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。 8 馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について 作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。 また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 <p>※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) 主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	日常生活活動学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	30時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	日常生活活動、生活関連活動とは何か？個人がその人らしく『生活する』とはどういうことなのか？を学びます。各人を取り巻く環境は同じではなく、万人が行っている身の回りの活動ひとつとっても、その中に個別の「こだわり」が存在するものもある。そこに作業療法士が関わることで、対象者の生活をどのように取りもどし、援助していくのかを考えていきます。		
授業計画 Course Content	日常生活活動(ADL)と作業療法 1 オリエンテーション 「ADL」とは / 「日常生活とは」 2 ADLとは 定義・概念・範囲について 3 基本動作と Self-care 4 Self-care の5項目について考える 5 「できるADL」と「しているADL」 6 ADLの自立とQOL 7 健常者の動作とは 8 ADL動作と動作分析 9 ADL動作と動作分析 10 生活関連活動について 11 日常生活活動の評価 / テストバッテリー 12 生活と文化的側面とは 13 疾患別ADLについて(呼吸器疾患) 14 疾患別ADLについて(脳血管疾患) 15 疾患別ADLについて(整形疾患)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動 改訂第3版」 協同医書出版		
備 考 Other Comments	実技を行うことがあるため、基本的に動きやすい服装で受講すること。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験15年及び専任教員9年の経験を有する。		

科目名 Course title	義肢学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	橋本 寛	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	(義肢装具士)
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>義肢の概観を学び、リハビリテーションとの関連や基本原理を講義します。基本的な義肢装具の用語や概念が説明でき、基本原理を理解応用できるようになることを到達目標とします。見本や臨床例などを交えて講義を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。また他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。</p>		
授業計画 Course Content	<p>※ () 内は教科書の章 例：1-1…第1章1 1 義肢総論 (0-1, 1-1) 義肢装具の位置づけ、義肢の歴史 2 義肢総論 2 (1-3, 4) 義足 3 義肢総論 3 (1-2, 5, 6) 義手、基礎医学、臨床医学 4 前腕義手 (1-7) 5 上腕義手 (1-8) 6 その他の義手、チェックアウト (1-9, 10) 7 下腿義足、大腿義足、下肢切断に対する作業療法 (1-11, 12, 13) 8 装具総論、上肢装具 (2-1, 2-2)</p> <p>※・授業の進捗状況に応じて、進度を変更することがあります。 ・理解する項目や覚える事柄が多く出てきます。各回で復習をいれますので、丸写しにせず、“思い出す努力”をしながら理解し、ほかの人に説明できるようになってください。 ・適宜討論や発表、指名発言を求めますので、積極的に参加してください。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>最終試験合計60%以上を合格とします。試験範囲は教科書及び講義中の配布資料とします。</p>		
教科書 Textbooks	<p>「義肢装具学」作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト メジカルビュー社</p>		
備 考 Other Comments	<p>教科書を使用し、不足部分を講義の配布資料で補います。平常点は、授業への積極的な参加（発表、討議、質問）とします。</p>		
実務経験内容			

科目名 Course title	装具学	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	上肢装具の機能、適応について教授し、代表的な装具に関しては採形から制作までを実施し、修正技術、適合判定技術を習得する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 装具概論（装具とは、機能、適応） 2 装具の分類、目的、原理 3 製作実習① 指用装具 4 製作実習② 指用装具 5 製作実習③ 指用装具 6 カックアップスプリント① 7 カックアップスプリント② 8 カックアップスプリント③ 9 カックアップスプリント④ 10 カックアップスプリント⑤ 11 カックアップスプリント⑥ 12 カックアップスプリント⑦ 13 カックアップスプリント⑧ 14 カックアップスプリント⑨ 15 カックアップスプリント⑩ 16 短対立装具① 17 短対立装具② 18 短対立装具③ 19 短対立装具④ 20 短対立装具⑤ 21 短対立装具⑥ 22 短対立装具⑦ 23 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 実技課題の提出		
教科書 Textbooks	イラストでわかる装具療法 医歯薬出版		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員27年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典 ・ 隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 2単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	2000年4月より介護保険制度も開始され、わが国でも福祉用具のレンタルや住宅改修が積極的に利用されつつあるが、まだ全体的な利用率は低い水準にとどまっている。本講座では作業療法士として必要な機器支援の方法、機器の使用法の基礎を学習する。		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉用具とは、背景、分類、ISO9999 2 介護保険制度、貸与と特定福祉用具、作業療法士の役割 3 機器使用者に対する支援、機器提供のプロセス 4 中間ユーザーとしての役割、福祉機器の情報 5 車いす、電動車いす 6 車いすの種類、機能、機構 7 移乗用具（ホイスト、吊具） 8 ベッドと周辺機器、テーブル 9 排泄のための機器 10 入浴のための機器 11 手すりスロープ 12 コミュニケーション機器 13 起居関連用具②（マットレス、ベッド手すり、サイドレール） 14 起居関連用具③（寝返り補助用具、姿勢補助用具） 15 起居関連用具④（椅子、いす車、手すり） 16 起居関連用具⑤（ベッドの利点と欠点、寝具選択のポイント） 17 移動関連用具②（歩行者・歩行車、床上移動用具） 18 移動関連用具③（車いすの分類、自走用車いすの種類） 19 移動関連用具⑤（介助用車いす、チルト機構、リクライニング機構） 20 移動関連用具⑥（電動車いす・電動化ユニット） 21 移動関連用具⑦（車いすオプション・クッション） 22 移動関連用具⑧（車いすの選択・車いすに求める要因） 23 移動関連用具⑨（障害形態別移動法） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論 財団法人テクノエイド協会		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年及び専任教員27年の経験を有する。 隅野講師：作業療法士として臨床経験22年の経験を有する。		

科目名 Course title	福祉用具支援技術論演習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永 宣典	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 演習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>作業療法士の援助技術の一つとして自助具適応による生活能力の向上が上げられる。この講座では自助具に関する基本的な考え方と適応技術について学ぶ。</p> <p>後半はいくつかの対応課題について実際に自助具を設計・作成し、材料の選択加工方法についても学ぶ。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 自助具とは基本的知識 2 自助具の製作、注意点 3 製作実習① 4 製作実習② 5 製作実習③ 6 製作実習④ 7 発表会 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ol style="list-style-type: none"> ①実技（作品の提出） ②レポート ③筆記試験 		
教科書 Textbooks	<p>「作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備」 協同医書出版 福祉用具支援論 財団法人テクノエイド協会</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	作業療法士として臨床経験9年及び専任教員27年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	臨床見学実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	4 5 時間 / 実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から2つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。</p> <p>また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、2年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(各実習施設による)</p> <p>感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	臨床見学実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	45時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の中から2つの領域において、臨床での作業療法場面を見学します。臨床実習指導者の指導のもと、初めて臨床で具体的なモデルを直接観察したり、会話をしたり、触れたりすることで、疾患像・障害像・患者像を明確にしていきます。</p> <p>また、直接作業療法士の仕事ぶりを見学し、作業療法の流れや役割等を確認し、2年次後期課程に予定されている各領域での作業療法各論を効果的に学習できる態勢を整えていきます。</p>		
授業計画 Course Content	<p>(各実習施設による)</p> <p>感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習施設の評定と実習終了後のセミナーを含めて総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	臨床評価実習	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	2年次 後期／3単位
授業方法 Teaching Methods	135時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本臨床評価実習の主目的は、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（情報収集、面接、観察、検査、測定）を実施し、全体像把握から問題点抽出、目標設定、援助計画の立案までを学習することとします。総合臨床実習に向けて、今後の自己の学習課題を明確化することに主眼が置かれます。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による） 感染症などにより公欠となった場合、実習期間外にて後日補充実習となる場合あり。また各実習施設にて実習困難な場合、状況によっては一部学内演習とする場合がある。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<ul style="list-style-type: none"> ① 実習前評価（OSCE） ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。		

講義概要

2024年度 作業療法学科
3年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
作業療法学科

《専門分野》＝基礎作業療法学＝

科目名 Course title	作業療法研究法	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>①作業療法研究の必要性と意義を説明できるようになる。</p> <p>②研究の種類とデザイン、統計について説明できるようになる。</p> <p>③論文の構成と記載すべき事項を説明できるようになる。</p> <p>④実証研究を実施しレポートを作成できるようになる</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業療法研究、臨床倫理と研究倫理、臨床疑問と研究の種類概要 2 研究の種類とデザイン（量的研究：観察研究、介入研究） 3 質的研究：混合法、事例を通じた研究 4 調査票の設計、尺度開発、文献研究、データベース研究 5 研究対象者の選定、アウトカム 6 研究目的に応じた統計解析（概観） 7 実証研究実施 8 実証研究実施 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験、レポート		
教科書 Textbooks	編集 山田孝：「標準作業療法学専門分野 作業療法研究法」. 医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。		

＝作業療法管理学＝

科目名 Course title	作業療法管理学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	福永宣典・中野里佳	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要</p> <p>作業療法士としてだけでなく、職業人として部門を管理・運営していくには何が必要か。こうした問題意識を起点として、医療・介護保険・障害者総合支援法の制度概要と仕組みについてみていき、部門を管理するための視点を検討する。さらに、業務管理における書類作成など遵守事項や医療の質を高めつつリスクをマネジメントする方法について講義をしていく。</p> <p>到達目標</p> <p>①診療報酬制度・介護報酬制度について理解し、概要について説明できるようになる</p> <p>②診療報酬制度・介護報酬制度の改定情報を自身で得ることができるようになる</p> <p>③業務管理について理解する</p> <p>④医療の質、リスクマネジメントについて理解する</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障制度の振り返りと制度・グループワークテーマの説明・ワーク開始 2 医療保険制度の仕組みと作業療法部門・介護保険制度の仕組みと作業療法部門 3 障害者総合支援法の仕組みと作業療法部門・予防、保健行政の仕組みと作業療法部門 4 業務管理（前半）：病院・施設の組織、療法士の業務、コンプライアンス 5 業務管理（後半）：労務管理、組織マネジメント 6 医療の質とリスクマネジメント 7 EBMと診療ガイドライン 8 まとめ 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	<p>教科書：齊藤秀之 能登真一 編集：リハビリテーション管理学. 医学書院</p> <p>参考資料：中村隆一・佐直信彦編集：入門リハビリテーション概論. 医歯薬出版株式会社</p>		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。</p> <p>中野教員：作業療法士として臨床経験21年及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法管理学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要：保健医療専門職に求められる職業倫理や関連法規を理解し、リハビリテーションサービスを提供する上で必要な多職種連携・地域連携の基礎を学ぶ。また、作業療法士が保健医療専門職として社会の中で担う役割・知識・技術・学習理論・教育手段についても学ぶ。加えて感染症が社会にもたらす影響を理解し、その具体的な予防法について修得する</p> <p>到達目標：①専門職に求められる職業倫理について理解する。 ②保健医療をめぐる法律や医療スタッフに関する法律について理解する ③多職種連携・多職種協働の必要性について理解する。 ④地域包括ケアシステムについて理解する。 ⑤感染症に関する知識をもち、具体的な感染予防対策をとることができる。</p>		
授業計画 Course Content	<ol style="list-style-type: none"> 1 職業倫理① 専門職に求められる職業倫理 2 職業倫理② 身分法と倫理綱領 3 多職種連携 4 地域連携 5 養成教育 6 卒後教育 7 感染症の現状と対策 8 感染症の予防（実技） 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（100%）		
教科書 Textbooks	齊藤秀之 能登真一 編集：リハビリテーション管理学. 医学書院		
備 考 Other Comments	適宜配布資料を使用し授業を実施する		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。		

＝地域作業療法学＝

科目名 Course title	地域作業療法学 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	名倉 和幸	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	<p>(今講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別養護老人ホームとデイサービスの OT の現状を知って、地域施設で働く OTR の役割を考える。 ・ 具体的な OT プログラムを体験し、実習や臨床に出てからの活動の参考にする機会にする。 ・ ワークショップで楽しくアイデアを出し合って、地域で働く OT の可能性を考える。 <p>(名倉講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度の全般的理解（介護認定からサービス利用に至るプロセスやサービス利用に関わる専門職種など）と同制度においてリハビリテーションの基幹施設と定義づけられる介護老人保健施設について学ぶ。また、2025 年を見据えた医療・介護の基本方針である地域包括ケアシステムを理解し、その取り組みの一環である地域ケア会議についても学習する。 		
授業計画 Course Content (予定)	<p>(今講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設紹介 2 デイサービスセンターの OT について 3 特別養護老人ホームの OT について 4 ワークショップ～地域 OT ができることを考える～ 5 実技 <OT プログラム体験> <p>(名倉講師)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 介護保険制度、介護老人保健施設についての説明 7 日本の医療・介護の展望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025 年問題について ・ 地域包括ケアシステムと介護予防・自立支援の取り組み ・ 地域ケア会議の紹介と専門職の関与について 8 地域ケア会議の模擬演習 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワークを通じての演習 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(予定)</p> <p>(今 講師) レポート</p> <p>(名倉 講師) 全 10 問のテストを行う</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>今 講師：作業療法士として臨床経験 22 年の経験を有する。</p> <p>名倉講師：作業療法士として臨床経験 25 年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	地域作業療法学Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	寺村 肇・伊藤 健次郎・日野上 貴也	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	様々な領域での地域作業療法について講義を行います。		
授業計画 Course Content (予定)	<p>(15時間で行う)</p> <p><精神障害領域> 精神障害領域での地域リハビリテーションの具体的な取り組みの紹介。 ケアマネジメントの考え方について講義。 講義① ・地域リハビリテーションの歴史的背景 ・ケアマネジメントの紹介 講義② ・地域リハビリテーションの取り組み ・地域リハビリテーションでの作業療法士の役割</p> <p><訪問リハ> 地域作業療法の実践や現状を訪問看護ステーションや就労支援事業所で勤務する OT、介護保険、障害福祉サービスを利用している利用者さんから聴き取る。 ワークショップ、参加型の講義を通して、学生さん自らで地域作業療法をデザインしてもらい、アイデアを共有し自分なりの地域作業療法のカタチを見出す。 講義①「地域作業療法のカタチ①」 1. 自己紹介、キャリア紹介 2. 各定義の紹介、日本地域作業療法学会、地域包括ケアシステムなどの説明 3. アクティブの紹介 訪問リハ、デイ、アクティブクラブ、就労支援、求められること、 活動・参加応援事例集、心意気実践チーム等の紹介 4. 利用者さんの紹介 ～疾患、障害のこと等を紹介～ 講義②「地域作業療法のカタチ②～ケースを実際に通して～」 1. 利用者さんトークライブ ～ご病気のこと、障害のこと、お仕事のこと、訪問看護・リハに望むこと～ 2. 質問タイム、運動麻痺のある左上肢の触診体験 3. 感想文作成 講義③「地域作業療法のカタチ③～地域で活躍する病院 OT から&地域の社会課題とは～」 1. 講師紹介 / 2. 活動報告 / 3. 地域の社会課題とは、ソーシャルキャピタルとは、 地域コミュニティづくりの事例等の話題提供 4. 感想文作成 (A4 用紙) 講義④「地域作業療法デザイン～地域包括ケアシステムのなかでの OT の役割とは～」 1. グループワークのルールや流れ、LTP などのフレームワークの活用方法の説明 2. グループワーク / 3. 発表・報告 / 4. まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>(予定)</p> <p><精神> 2回の講義を踏まえて、地域リハビリテーションの課題についてレポート A4 1枚程度作成。 <訪問> グループワーク中で作成した LTP2 レポートを個別に完成させたものを A4 用紙 1枚程度作成。</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	地域作業療法学Ⅲ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	中野 里佳	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>〈発達障害領域の地域作業療法〉</p> <p>発達障害を伴う子どもたちや大人とその家族が地域で生活する際の課題を知り、支えるための社会資源、制度などについて学び、作業療法士の責務を理解する。</p>		
授業計画 Course Content	<p>近年、医療ケアが必要な子ども、自閉症スペクトラム、学習障害、発達性運動障害などを伴う子どもが増えている。子どもたちやその家族が抱える問題、支援するための社会資源、制度について体系的に学び、ディスカッションを通して作業療法士の役割について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域作業療法（発達障害領域）概論 作業的公正、作業権、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンなど作業療法実践に必要な理論や概念について理解する。 2 0歳～未就学児の支援 新生児集中治療室（NICU）、新生児診療相互援助システム（NMCS）、児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業、訪問リハビリテーション等、子どもや家族を支えるサービスと作業療法士の役割について学ぶ。 3 学童期～思春期（小学生～高校生）の支援 放課後デイサービス、特別支援教育、個別支援計画、保育所等訪問支援事業など、教育を受ける権利および地域参加を補償するための包括的な支援について理解し、作業療法士の役割を学ぶ。 4 青年期の支援 就労支援、自立生活支援、意思決定支援、ACP（アドバンスケアプランニング）についての理解と作業療法士の役割を学ぶ。 		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	グループディスカッション、筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。		

科目名 Course title	居住環境整備論	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	隅野 裕之	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives (予定)	住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整の為の評価と実際を学び、より豊かな生活と活動範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学習する。		
授業計画 Course Content (予定)	(15時間で行う) 1 「障がい者・高齢者の機能特性と問題点・住環境整備の必要性」 2 「住環境整備に必要な基礎知識 (関連法規や建築に関すること)」 3 「住環境の評価」 4 「住環境整備の手順・方法 (総論)」 5 「疾患別住環境整備の手順・方法」 6 「事例検討 (GW・2症例程度)」		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	(予定) レポート (50%)、学期末試験 (50%) などによる総合評価		
教科書 Textbooks	作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備		
備 考 Other Comments	授業に興味・関心が持てるように、また学生の自主的な学習意欲を引き出せるように、教材や授業方法の工夫に努めます。		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験22年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	総合臨床実習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 前期／9単位
授業方法 Teaching Methods	405時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>総合臨床実習は、3年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。</p> <p>また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。</p> <p>その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。</p>		
授業計画 Course Content	<p>臨地での実習を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の状況により一部学内演習となることがある。（臨地での実習については、各実習施設による）</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>① 実習前評価 ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価 上記①～③を以って総合的に評価する</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	総合臨床実習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／9単位
授業方法 Teaching Methods	405時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>総合臨床実習は、3年間の作業療法士養成課程の総決算的な意味を持ちます。当校教育目標としても掲げている「有資格者の作業療法援助と比べ、未熟で時間を多く必要としても、作業療法対象者をリハビリテーション目標に導くために、責任を放棄せず、最後まで全力を尽くし最善の解決策を講じることができる問題解決能力を身につける」ことを主目的としています。</p> <p>また、前職業人として実習施設職員ならびに担当症例と望ましい人間関係を保ちながら、担当症例に対して必要な作業療法評価（全体像把握から問題点抽出・目標設定・援助計画の立案）、作業療法援助、作業療法再評価、作業療法援助の修正、作業療法目標達成までを学習します。</p> <p>その際、担当症例の抱える様々な生活障害を、治療だけにこだわらず、あらゆる方法を担当症例と共に考え試みながら、どうすれば担当症例が主体的な生活者として、生活を送ることができるようになるか、その答えを作業療法士として導きだすことができるようにならなければなりません。</p>		
授業計画 Course Content	(各実習施設による)		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	<p>① 実習前評価 ② 実習施設の評価 ③ 実習終了後評価</p> <p>上記①～③を以って総合的に評価する</p>		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

＝総合実習＝

科目名 Course title	作業療法総合学習 I	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期 / 1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間 / 実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要：国家試験専門基礎分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。</p> <p>到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認し構築する。 国家試験合格を目標とする。</p>		
授業計画 Course Content	<p>【専門基礎分野】</p> <p>① 解剖学（骨・筋・神経） ② 生理学 ③ 運動学（上肢帯・体幹・下肢帯） ④ 神経内科学 ⑤ 内科学 ⑥ 精神医学 ⑦ 整形外科学 ⑧ まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		

科目名 Course title	作業療法総合学習Ⅱ	学 科 Department	作業療法学科
担当者名 Instructor	専任教員	期間及び単位 Term/Credits	3年次 後期／1単位
授業方法 Teaching Methods	15時間／実習	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	<p>講義概要：国家試験専門分野の内容の復習と定着を過去問等の活用により図る。 グループディスカッションなども活用し、学生の自主性を促す。</p> <p>到達目標：卒前教育として、作業療法士に必要な知識・技術を再確認構築する。 国家試験合格を目標とする。</p>		
授業計画 Course Content	<p>【専門分野】</p> <p>① 身体障害分野 ② 精神障害分野 ③ 老年期障害分野 ④ 発達障害分野 ⑤ 装具学 ⑥ 義肢学 ⑦ 福祉用具 ⑧ まとめ</p>		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	国家試験対策に準ずる教科書		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	<p>福永教員：作業療法士として臨床経験9年の経験及び専任教員27年の経験を有する。 木屋教員：作業療法士として臨床経験15年の経験及び専任教員9年の経験を有する。 勝村教員：作業療法士として臨床経験7年の経験及び専任教員6年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験6年の経験及び専任教員4年の経験を有する。 中野教員：作業療法士として臨床経験21年の経験及び専任教員3年の経験を有する。</p>		